



にこにこトマト

1995年から、京大病院小児科に入院中の子どもと家族に絵本、工作、音楽、遊びなどの楽しみを届けるボランティアグループ。創設者が我が子の入院をきっかけに「おはなし会」を始め、活動を発展。現在は2代目代表の高谷恵美さん(左から4番目)を含め3名の事務局スタッフを中心に約75名のボランティアが登録。2017年に子供と家族・若者応援団 内閣府特命担当大臣表彰。

facebookや
ブログで日々の活動を
発信中です。

人気の活動はハロウィーンの仮装、大人も子どももワクワクする一大イベントだ。夏まつりやバザーも、病院を出られない子には楽しい体験だ。



おはなし会、コンサートやベネチアンガラスの工作など活動はさまざま。病室を出られない子には工作キットを配布する。「治療の関係上、飲食物はNGです。男児向け用品(新品)のご寄付は特にありがたいですね」

縁の下の 力もち

闘病中の子どもとその家族に

「楽しく豊かな時間」を届けるボランティアグループ

にとっても貴重な時間だった。

病院の小児科病棟では半年や1年と長期入院のケースも珍しくない。小児患者たちに楽しく豊かな時間を提供しているのが京大病院で活動するボランティアグループ「にこにこトマト」(通称にこにこ)だ。

「以前の代表が、活動を始めて、今年で24年目です」と話すのは4年前に事務局代表を引き継いだ高谷恵美さん。プレイルームではほぼ毎日プログラムがあり、入院中の子どもは自由に参加できる。

子どもが入院すると、家族は24時間付き添い必要がある場合が多い。高谷さん自身もかつては娘さんの付き添いとして院内で暮らした経験がある。当時、「にこにこ」は、娘さんの楽しみだけでなく、親である高谷さん

「子どものつらさは闘病だけではありません。健常者と同じように外では遊べませんが、そんな子どもを家族、親族、友人が支えてくれました。でも半年以上も24時間一緒となると、子と親双方にとって、病院に訪問してくれるボランティア活動の存在がありがたいのです」。

痛みを伴う治療の前に「帰ってきたら『にこにこ]があるからがんばってくる」と手を振る子どもがいる。実際、「にこにこ」がもたらす楽しみや笑いは気持ち豊かにし、つらい治療にも「がんばる」気力を湧かせてくれるのだ。

小児患者とその家族たちを支える「にこにこ」の活動は、まさに縁の下の力もちだ。



「はたらき」を化学する。
"Performance" Through Chemistry

私も力もちです

三洋化成工業株式会社

京都市東山区一橋野本町11-1

最寄りバス停は「泉涌寺道」

闘病中の子どもとその家族に楽しみや笑顔を届ける「にこにこ」と同様、三洋化成も暮らしや産業のさまざまな分野を支えています。

Twitter 始めました!

@sanyochemical

